もうひとつの働き方を選ぶための情報誌

せれくと SELECT

2020. 6
JUNE
No.80

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合　http://www.tokyo-workers.jp

私の仕事術

自然が先生。働き方の多様性で生きやすい社会へ

鶴岡ナリワイプロジェクト　井東 敬子

仕事がないなら作ればいい

はじめまして! 私は、20 代は JTB、30 代は富士山麓の自然学校で、青木ヶ原樹海と洞窟探険のガイドなど野外活動の指導をしていました。その経験から「自然に学ぶ。無いものは作る。自分の可能性を自分でつぶさない。」の 3 つが、行動指針です。

都内で子育てをしていましたが「子どもを自然の中で育てたい!」と、2011 年山形県鶴岡市に移住しました。

移住 2 年目の 3 月末、「来月の仕事がまだ決まらない」という女性の声を耳にしました。雇用主に「新年度予算が確定するまで雇えるかわからない」と言われたそうです。憤りを感じる一方、自分の人生を誰かに委ねるのは止めよう。仕事がないなら作ればいいと、小さな仕事づくり活動をはじめる決意をします。

『月 3 万円ビジネス』(藤村靖之著、晶文社)と出会い、「奪い合わないでわかちあう。借金しないで小さく始める。いいことしか仕事にしない」をベースに、2015 年鶴岡ナリワイプロジェクトを始動。得意なことで身近な困りごとを解決する「ナリワイ起業」という言葉を作り、起業講座を開始。卒業生は 5 年 (2015〜2019) で 65 名。2019 年には全国ネットワーク「わたしごと JAPAN」が誕生しました。

自分が納得する働き方を追求する

商売は、いくら儲かったかで評価されます。しかし、ナリワイ起業の真の価値は、自らの強みを再発見すること。「地域課題を自分の手で解決できる」と意識が変わることです。おまけに、地域に笑顔と小銭が循環し、セーフティーネットが生まれます。

世界が、新型ウイルスに翻弄されています。人類は、今こそ地球 46 億年の歴史に学ぶ時です。地球環境が激変した際、生き残ったのは巨大な恐竜ではなく、ゴキブリのような小さな生き物でした。小さく環境適応能力が高いものが、生き残ったのです。また、新型ウイルスは、開発によって野生動物と人が暮らす空間が近づき、ウイルスが人にうつりやすくなったという説が、多数示されています。開発し生物多様性を奪う行為は、高リスクと言えます。

これから学べば、収入を一箇所に依存する働き方はリスクが高い。これからは複業 (複数の仕事を持つ) がスタンダードに。グローバル化、経済拡大が豊かさを生むという考え方は、過去のものになるでしょう。

これからは、一人ひとりが自分が納得する働き方を追求する。それが、生き方の多様性を広げます。自然に学びながら、仕事作りのサポートで、自分がほしい未来を作っていきます。

● いとう けいこ ●

JTB、国際ボランティアセンター山形、ホールアース自然学校職員を経て、2011年山形県鶴岡市に移住。2015年鶴岡ナリワイプロジェクト始動。2019年全国ネットワーク「わたしごとJAPAN」を設立。夫は羽黒山伏、一児の母。

infomation

鶴岡ナリワイプロジェクト WEB サイトをぜひご覧ください。

好きを仕事に育てるナリワイ起業講座

滋賀県東近江圏域　働き･暮らし応援センター“Tekito－”

「10年後の彼を見つめた就労支援」～未来への下ごしらえ～

少子高齢化が叫ばれてきた私たちの暮らしは、すでに人口減少社会に突入している。言わば社会の最先端を行く日本の小さな田舎の町の現実と向き合い、地域を元気にしていくための新たな動きに注目したい。「滋賀県東近江圏域　働き･暮し応援センター“Tekito-”（てきとう）」は様々な「働きたい」を実現できる地域づくりを応援している。そのキーワードが「働く」、キーマンが「働きづらさを抱えている人々」。

明日、あさっての働きでなく、10 年後の生き方を応援したい

障がい者就労・生活支援センターは今、全国にあるが、滋賀県はこれに先駆け 16 年前から取り組んできた。「滋賀県東近江圏域、働き・暮し応援センター“Tekito - ”」所長の野々村光子さんは、立ち上げ当初から「働きづらさを抱えている人々」のさまざまな「働きたい」「働きたくない」を応援してきた。「働く」という字は「人」の思いが「重なって」大きな大きな「力」になることだと、センターで応援している方たちから気づかされたと話す。

田舎の地域をどうしていくのかを考える時、ひとり勝ちしない・一人負けしないの地域をつくっていくキーマンは、障がいのある人や引きこもってきた人たちだ。彼らを貴重な地域の担い手として掘り起こし、素敵に「働く」ことにこだわった取り組みから、人と人との間に「仕事」が入る事が、人も地域も会社も太っていく事だと実感している。

野々村光子さん

「働き・暮し応援センター“Tekito - ”」の命名は、仕事に必要な大切な2つの“適当”からだ。仕事に疲れて休んでいた男性の「働き続けることの難しい。だから2つの大事な適当がいる。1つはその人にとっての適当な職＝適職。もう1つは帰宅してからビールを 1 本飲むくらいのゆとりがある適当」という話に共感した。開設当初から、どんな人でも受け入れ、相談にのり、その人に合わせた働き方、応援のしかたを編み出し、実践している。

カツトシさんの生き方

“Tekito - ”には一生懸命だけど、なぜかうまくいかない人がたくさんやってくる。その中の1人がカツトシさん。

カツトシさんは「働きたい」気持ちがあったが、1 年間で 100 社の面接に落ちた。さすがに「もうアカン！」と思って、引きこもったカツトシさんに野々村さんは「あなたは、アスペルガーという障がいがあるかもしれない」と話した。すると、「良かった！自分の努力が足りないのでは無かったんだ！」と、気持ちを立て直したというのだ。

自分のアカンとこは無いと知ってホッとしましたわ。
洗車も自治会も大変ですねん。
長い人生の中で今がぼちぼちですわ。

その後、カツトシさんはセンターで働き方の練習をしたのち、自動車販売会社に洗車の仕事の実習に行った。最初に社長が「この車を洗ってみて！」と言ったところ、彼は車に2時間水をかけ続けた。社長は「斬新な洗い方やな」と言ったが、野々村さんは社長の洗車依頼のしかたをたしなめた。彼には洗車の仕方を順番に書き表して示すことが必要だとレクチャーした。やり方がわかれば、カツトシさんの仕事は完璧。この会社に就職し、洗車の仕事を10年間継続している。

その後、カツトシさんは町内の自治会長に選ばれた。引き受けるに当たって地域の人に野々村さんからアスペルガーの事を説明してもらい、自分には応援団が3人必要だと話した。3人の副会長を選出して役割を果たし、自分の応援団をつくることで地域が活性化していく。地域の人のつながりが広がることにもなる。

地域の企業に教えてもらったこと

センター開設当初、野々村さんは障がい者の雇用を働きかけるため、地域の事業者64社をまわり、依頼した。ところが「支援が必要な人はいらない。即戦力が一番必要!」と誰もが断った。野々村さんはその対応に「この地域はやばい！」と思ったという。小さな田舎町はこの先すぐに人口減少が待ち受けているのに、広く人材を求めないと地域経済が崩壊するという危機感だった。

そこでまず、見学事業所登録を始めた。平均ひきこもり年数が25年という“Tekito-”に来ている人にセンターで仕事の現場の様子を伝えることはとても難しい。実際に事業所を見学する事で、働くことを実感して変わっていき、「制服を着たいな。つなぎかっこいいな！」と憧れもでてくる。働く経験の乏しい彼らに、働いている現場を見せる事は、企業にしかできない応援なのだ。スーツで見学に来たりする人も出てきて、社長が目にとめて、流れが生まれる。その事業所は、野々村さんにより、いつの間にか実習事業所に格上げされ、後に雇用事業所へとなっていく。

現在では、750社と付き合いがあるという“Tekito-”は、就労支援だけではなく、会社の情報をネットワークする役割りも担い、地域経済に参画している。

『10年後の彼を見つめた就労支援』
～未来への下ごしらえ～

“働くということ”

私たちは毎日たくさんの「働きたい」と出会う。
その「働きたい」思いには
色んな意味がざっしり。
家族への愛や自分のヘタクソや
自慢したい気持ち。
稼いだお金で居酒屋へ・・・
彼らの「働きたい」と出会う度、
「働くこと」が持つ力の
大きさに驚き、学ぶ。
また「働くこと」は
単なる作業ではなく、
生きる力を育むステージ・・・
そんなステージに立つ姿は
誰もが真剣、誰もがカッコイイ、
誰もがはんまもん。
輝く場所がここにある。

Tekito-

作業と仕事は違う

“Tekito-”の就労定着率は何と89%。仕事の継続には、「遠慮はいらない。配慮をください」が必要だという。仕事のミスは遠慮しないで指摘してほしい。一方でその人に合わせた配慮がほしい。例えばフルタイムより午前中の3時間に集中する働き方、人と話をすることが苦手なので、休憩時間を皆とはずらす・・など。そうすれば、能力が発揮できる。いろんな働き方があることは、会社にとっても有効だ。

エアコンのネジ締めを70か所もやっている人に「大変な作業だね」と声をかけたところ、「作業ではない。僕は日本の夏を背負う仕事をしているんだ」と誇らしく言ったのだ。“Tekito-”で一緒に働いていた時に野々村さんが「何のために！がある事は仕事だ」と話した。熱中症の対策が必要な日本の状況を考え、彼はなんのためにこのエアコンの仕事をしているかを知っていた。

就職したという事実より、働くことは、その人の生き方でカッコいい。働いている姿を人に見せたくなるような憧れの保障をTekito-という応援センターはしていきたいと言う。また地域に許してくれる大人がたくさんいることが地域を太らせる力になる。働く現場から様々な気づきを生かし、形にしてきた野々村さんに「働く」の意味を改めて気づかせてもらえた。

（東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合・和田安希代）

＊第14回WNJ全国会議での報告をもとにまとめました

食の新ワーカーズ

奮闘中!
ワーカーズ・コレクティブ かんかん森食堂

荒川区東日暮里にある「日暮里コミュニティハウス」は、元日暮里中学校の跡地に建てられた（2003 年）クリニックや「キッズガーデン保育園」（1階）、賃貸住宅「コレクティブハウスかんかん森」（2，３階）、「ライフ&シニアハウス日暮里」（4 ～ 11 階）が共存している 12 階建ての多世代型複合施設です。

２月５日、施設内にある「ライフ&シニアハウス日暮里」と「キッズガーデン保育園」の厨房受託業務を行なうべく、多くの地域の方々に見守られ、新たに「ワーカーズ・コレクティブかんかん森食堂」として無事に設立総会を終え、スタートしました。

４月２日より厨房業務を開始しました。日々勉強、試行錯誤、無我夢中でメンバー一同頑張っております。

相浦 成美（あいうら なるみ）

東京ワーカーズ・コレクティブ支援基金

第28回支援基金助成団体決定!!

■ワーカーズ・コレクティブ　草の実
イベント用の床板 張替え費用

■ワーカーズ・コレクティブ　スーユンタン
働きづらさを抱えた学生の就労につなげるための実習費用

■企業組合ワーカーズ・コレクティブ　椀もあ
事業効率をあげるための栄養管理ソフトの購入費用

ワーカーズな毎日

そよかぜ」は暮らしの中で、困っている時に助けてくれるひとつの機能として田無(西東京市)のまち1998年に生まれました。住み慣れた地域でだれもが安心して住める町をめざし、人手不足の中若いメンバーにも資格が取れるよう支援しつつ、皆で活動をしているワーカーズです。

特定非営利活動法人アビリティイクラブ
田無たすけあいワーカーズそよかぜ

西東京市　042−465−8994

ACTつながるケア
訪問介護(介護保険サービス、障害福祉サービス)
介護予防･日常生活支援総合事業

あるメンバーの一日

9:00～9:45
自宅から総合事業利用者宅へ
一緒に家事援助

10:30～12:00
要介護1の利用者宅へ
利用者と一緒に買い物と家事援助

15:30～16:30
障害者宅へ
利用者と一緒に家事援助

地域活動として

そよかぜでは地域の皆様とACTいきいきサークルの補助金で「そよかぜるーむ」を運営し、交流しています（手芸教室、折り紙教室、フラダンス教室等）。
事務所では手作り品の販売もしています。ケアに行かれなくなった人の別の働き方とし、売り上げの一部が作者に入ります。

地域の人が気軽に立ち寄って、おしゃべりできる居場所

今回の新型コロナ禍のために布マスクを作り、地域の人に喜ばれています。

読んでみませんか!
ワーカーズコレクティブガイドブック 2020
はたらきかたつくろうよ！
ワーカーズ・コレクティブの説明、ワーカーズ設立の手引き、事業経営のチェックなどを掲載しています。
ワーカーズ・コレクティブをつくりたい方、事業運営に関心のある方はぜひ!
価格：1,000 円（税込）
ご購入の連絡は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合まで

東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合情報誌「せれくと」No.80
〒160-0021　東京都新宿区歌舞伎町2-19-13　ASKビル5階
TEL:03-3207-1941　FAX:03-3207-1945
E-mail　office@tokyo-workers.jp
http://www.tokyo-workers.jp

発行日　2019年6月
編　集　ワーカーズ･コレクティブ　企画編集･のもの
年間購読料　600円（年4回発行）